

役職・職位 准教授

氏名 高橋 甲枝

■ 学歴

1. 佐賀医科大学大学院医学系研究科看護学専攻（修了課程）修了

■ 学位

1. 修士（看護学）

■ 研究分野

1. 看護教育
2. がん看護

■ 研究キーワード

1. 周術期 シミュレーション教育
2. 乳がん 就労支援

■ 研究課題

1. 術後の看護支援についてのシミュレーション教育研究
2. 乳がん患者の就労支援ニーズについて、協力病院からの患者紹介のもと調査を実施する

■ 担当授業科目

1. 成人看護学概論 必須
2. 成人急性期看護方法論 必須
3. 成人看護学演習 必須
4. 成人急性期看護学実習 必須
5. 看護のための臨床検査 必須
6. 看護学特論 選択
7. 看護総合演習（通年） 必須
8. 看護総合実習（通年） 必須
9. 救急クリティカルケア看護学 選択
10. 初年次セミナー I 必須

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|---------------------------------|
| 1. | 授業科目名【成人看護学概論】前期 |
| | ① 成人看護学概論は2名で講義および課題成果発表を行っている。 |

	<p>② 成人期の健康問題について理解を深めるために、課題レポート作成、グループ内で発表を行った。これまでも成果発表を行っていたが、一部の学生の発表にとどまっていたため、全員が発表する機会を設けた。</p> <p>③ 看護理論については事例を用いて説明を行った。</p>
2.	<p>授業科目名【成人急性期看護方法論】後期</p> <p>① 成人急性期看護方法論は、2年次開講科目である。2名で講義を担当した。本科目はこれまでに学んだ形態機能学、疾病論、成人老年看護概論などの科目と関連する科目である。学生には、オリエンテーション時に既習の科目の復習を行い、講義に臨むように説明を行った。</p> <p>② 手術を受ける患者の身体侵襲時の生体反応についての解説、手術を受ける患者の心理面について事例をもとに解説を行った。</p> <p>③ 手術侵襲の影響については、穴埋め問題を各自で取り組めるようにクラスルームにアップした。</p> <p>④ 手術室の看護についてはDVD視聴と解説にてイメージ化を図った。</p> <p>⑤ 3年前期につながるように事例を用いて看護過程の展開に必要な知識について考えるような講義展開を取り入れた。新たに得た知識を用いることで、患者理解に繋がることを実感できるようにした。</p>
3.	<p>授業科目名【成人看護学演習】前期</p> <p>① 成人看護学演習は、看護過程と看護技術の演習である。3年前期に看護過程演習および看護技術演習を行っている。急性期事例（胃がん）、慢性期事例（肝硬変）の2例を展開し、反転授業とした。</p> <p>② グループワーク人数を5名とし、個人ワークを行い、グループワークに反映するようにした。</p> <p>③ 看護技術演習は、食事療法、血糖・インスリン、食事指導、術食後の観察演習、術後患者の清拭・離床を行った。実施後にディスカッションを行い、実践の根拠について検討を行った。実施する根拠の修得を目指してプログラムの修正を行った。</p> <p>④ ストーマ造設した患者の看護については、模擬便を入れて体験を行い、ディスカッションを設けた。さらに学生は1日装着体験を行う患者体験を行った。</p>
4.	<p>授業科目名【成人急性期看護学実習】</p> <p>① 成人急性期看護学実習は本来2週間の臨地実習と3週目にICUおよび手術室見学実習の3週間実習であるが、臨地実習は午前中3時間の臨地実習と午後は学内実習を行った。</p> <p>② 新型コロナは5類分類となったが、医療施設では継続して警戒されており、朝の健康確認を徹底して、体調の悪い学生は受診勧奨と学内での実習にて対応を行った。</p>
5.	<p>授業科目名【看護のための臨床検査】</p> <p>① 昨年度に引き続き看護師3名にて担当した。放射線技師を外部講師として迎え1コマ放射線検査について説明を受けた。グーグルフォームのテスト機能を用いた。</p> <p>② 授業計画は、これまでの形態機能学、疾病学、そして成人急性期方法論、成人慢性期方法論との関連を意識して、系統別に講義を組み立て、講義終了後に小テストを実施し、学生の理解を確認しながら講義を行った。</p> <p>③ 検査データの基準値の定着のために毎回、知識確認テストを行い、グーグルフォームで回答させ、解答率をみながら問題の解説を行った。</p> <p>④ 演習を取り入れ、シミュレーション人形を用いた心電図の装着と不整脈の講義、模擬尿での検査の実施と判断、呼吸機能検査の体験とマウスフィルタをくわえての患者体験の課題学習を取り入</p>

	れた。
6.	<p>授業科目名【看護特論】</p> <p>① 8名によるオムニバスの科目で、各領域の教員で授業を行った。</p> <p>② 急性期看護の学びを深めるために、臨床検査・画像診断から得られた知見から「根拠にもとづいた看護」について考える機会とした。</p>
7.	<p>授業科目名【看護総合演習】</p> <p>① 看護総合演習では、6名の学生を担当した。</p> <p>② 急性期看護について深めたい内容について文献検索を行い、実習計画書の作成、実習指導者との打ち合わせ、実習を行ってその学びについてレポート作成を行った。</p> <p>③ レポート指導はグーグルドライブ機能を使用し、学生のレポート指導を行った。</p> <p>④ 学生は作成したレポートをもとに発表抄録作成、パワーポイントを用いた発表を行い、ディスカッションを通して急性期の看護について学びを深めていた。さらに、他者評価・自己評価を行うことができていた。</p>
8.	<p>授業科目名【看護総合実習】</p> <p>① 看護総合実習は6名の学生を担当した。</p> <p>② 周術期の患者・家族の理解と看護師の理解を深めるために、各自「実習目的、計画」を立案し、午前中臨地にて実習を行い、午後はカンファレンスを行った。</p> <p>③ 最終日に目標に対する学びの発表とディスカッションを行った</p>
9.	<p>授業科目名【クリティカルケア看護学】</p> <p>① 2名の急性期の教員で演習を行った。演習では救急・クリティカルケア領域における倫理的な問題についてグループワーク、発表を行い看護師のジレンマについて考える機会とした。</p> <p>② 集中ケア認定看護師による実際の人工呼吸器を用いた説明や挿管の看護について、患者体験と看護の根拠、看護師の役割について学びを深めた。</p> <p>③ 脳神経、整形外科、周術期を中心に救急・クリティカルケア場面についての解説を行った</p>
10.	<p>授業科目名【初年次セミナーⅠ】</p> <p>昨年度の課題であった「問い」については、「問い」とは何かについて講義内容および課題シートの変更を行い、学生が思考のステップを踏むことができるようにした。また、ミニレポート・レポート作成の進行途中に意見交換の場を作ることでグループ学習の機会とした。</p> <p>学生の学習スキルをアップするために、ミニレポートではレポートの書式（構成）と文献検索スキルの習得を重点に、レポート作成では講義の流れを、考える・思考に重点におき授業を展開した。</p> <p>担当教員5名で、講義前後に講義の内容・指導方法について詳細な打ち合わせをした。講義の指示内容については、教員間で統一をはかった。</p>

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1987年4月～（現在に至る）	日本看護協会会員	
2.	1995年5月～（現在に至る）	日本公衆衛生学会会員	
3.	2004年7月～（現在に至る）	日本看護研究学会会員	
4.	2004年7月～（現在に至る）	日本看護科学学会会員	
5.	2011年4月～（現在に至る）	日本看護技術員	

6.	2015年2月～（現在に至る）	日本運動器看護学会員	
7.	2021年1月～（現在に至る）	日本看護教育学会会員	

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（学術論文）					
1.	2023	ストーマ装 具を装着し た看護学生 の生活体験 からの気づ き	共著	西南女学院大学 紀要, 27, 2023	模擬ストーマとストーマ装具を装着した看護学生の日常生活体験からの気づきを明らかにすることを目的に学生の課題レポートを質的帰納的分析した。学生が患者疑似体験からストーマ造設患者の困難を知ることは、患者に共感し、患者理解の深まりとともに必要な看護を考える上で有用な体験であった。

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023.12.9～2023.12.10	看護科学学会学術集会	実行委員

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023.4月～現在に至る	教務委員会	委員
2.	2022.4月～現在に至る	看護学科プロジェクト	プロジェクトメンバー
3.	2022.4月～現在に至る	看護学科 学力向上	分科会学力向上メンバー